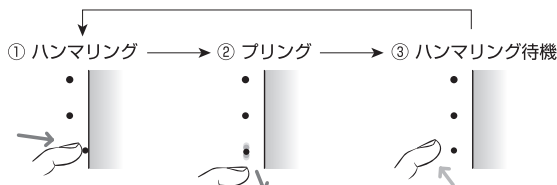


## 注意点1

軌道と人差指に注意して  
トリルを弾くべし！

トリルを均一なトーンで鳴らし続けるためには、“プリング→ハンマリング”の動作に注意すると良いだろう(図1-a)。プリングは弦を下方方向に引っ掛けるテクニックだが、トリルではハンマリングも連続して行なうために指板上に指が戻るような軌道を常に意識することが大切だ。この時に、この軌道を少しでも小さくし、素早い動きができるように心がけること。そうすることで、細かいトリルを鳴らすことができる。そして、ハンマリングを待っている人差指の押弦がズレてしまわないように注意しよう。人差指の押弦がズレると、音質が乱れるので必ず注意してもらいたい(図1-b)。これらの点を気をつけていれば、あとは持久力をつけるだけなので、何度も弾いてトリル筋を鍛え上げよう。

図1-a トリルの動き



トリルは、①～③を素早くくり返す。その際に③へ移る軌道を少しでも小さくすることが大切だ。

図1-b トリル時の人差指



トリル時に人差指の押弦がズレたり、チョーキングをしてしまうと、音質が乱れるので注意すること！

## 注意点2

人差指&小指による  
ストレッチ・トリル

これは1弦のみを平行移動するトリル・フレーズとなっている。ポジション移動は、人差指を先頭に素早く行なおう。フレーズ自体の難易度はそれほど高くないが、最大の難関は3小節目の人差指と小指によるストレッチ・トリルだと思う(写真①～④)。写真では、ネック上から軽く親指を出しているが、指が開かない人はクラシック・フォームで弾いても良い。ポイントは、まず人差指でしっかりと14フレットを押弦すること。人差指の押弦がズレてしまえば、トリルを行なう小指の動きにもブレが生じてしまうので注意しよう。また、小指は力が弱いので、トリルの軌道と指を当てる指板のポイントをしっかりと意識して弾くことが大切だ。そうすることで、確実にトリルを鳴らすことができるはずだ。



1 弦 14f を人差指で押弦。小指は 20f 上で待機させる。



小指によるハンマリング。人差指で2弦をミュートしよう。



小指によるプリング。あまり大きな動きにならないように！



再びハンマリング。音がハッキリと出るように注意しよう。

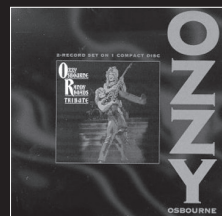
## ～コラム24～

## 地獄の戯れ言

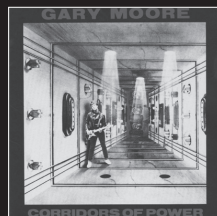
ここではトリルの名演が聴ける楽曲を紹介しよう。1曲目は、オジー・オズボーンの「ミスター・クロウリー(死の番人)」。トリルの上昇フレーズで舞い上がり、ディミニッシュの弦移動トリルで舞い降りる。胸を締めつけられるような感動を与えてくれるランディ・ローズによる名演だ。次は、ゲイリー・ムーアお得意の開放弦トリルが聴ける「エンド・オブ・ザ・ワールズ」。曲の冒頭におけるフリータイム・ソロは圧巻で、かなり速いトリルが披露されている。最後はジョージ・リンチの「イン・マイ・ドリームス」。誰もがライトハンドだと思った超絶ストレッチ・トリルは前代未聞のプレイだ。

## プロに学べ！

## トリル名プレイ紹介



オジー・オズボーン  
「ミスター・クロウリー(死の番人)」  
from「トリビュート～ランディ・ローズに捧ぐ」



ゲイリー・ムーア  
「エンド・オブ・ザ・ワールズ」  
from「コリドーズ・オブ・パワー」



ドッケン  
「イン・マイ・ドリームス」  
from「アンダー・ロック・アンド・キー」